NPBガールズトーナメント2021 全日本女子学童軟式野球大会に係る

新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン

公益財団法人全日本軟式野球連盟

一般社団法人日本野球機構

2021年7月吉日

≪NPBガールズトーナメント2021に参加する皆さんへ≫

・チーム(対戦相手も含む)及びスタッフ、審判員、大会関係者が安全・安心に軟式野球を楽しむためにも**「体調不良のない者」かつ「感染予防対策を日頃から行っている者」が大会に参加することが大前提になります。**

・大会によってクラスター発生・感染拡大が生じないよう、日頃から感染予防対策を徹底してください。やむを得ず感染してしまうケースもあるため、その患者や家族への人権に配慮し、「偏見や誹謗中傷を生み出さないこと」が重要です。

・軽微な症状でもウイルスを保持し、他者へ感染させる可能性があります。軽い感冒(風邪)の症状を見逃さないことが大切です。熱中症と風邪の症状、感染症状は似ています。従って体調がおかしいと感じたら「積極的に休むこと」が大切です。

・指導者ならびにチーム代表者は、選手の異変に敏感になり、日常的にチーム内の選手及びスタッフの健康チェックのみならず、そのご家族の健康状況にも変化がないかなども情報収集を心がけ、チーム内でクラスターが発生しないように注意を払ってください。

・本紙は、本大会に参加する選手およびチーム関係者、審判員、大会運営者、観客の全ての皆さんの感染予防対策ガイドラインになります。ガイドラインを遵守し感染予防対策を実施して頂きますようお願い致します。

・本紙上での定義は以下とします。

選手	本大会に出場する選手
チーム関係者	代表者、監督、コーチ、スタッフ、その他チームと移動、宿泊、練習などチームと行動を共にする者（保護者含む）
チーム応援者	チームと行動を共にしないが、チームが作成する健康チェックシートに記載され、試合の観戦のみを目的に来場する者

≪1.共通感染予防対策≫

①毎日の健康チェックと行動記録

・体温測定：起床直後、球場への出発前等決まった時間での体温記録。(必須)

・体調管理：倦怠感、咳、咽頭痛、息苦しさ、味覚異常、嗅覚異常、食欲低下の有無、睡眠時間等「NPBガールズトーナメント2021参加者　健康チェック表・行動管理シート」に記載した項目等に関して毎日チェックしておく。

・行動履歴：外出した場合は、外出時間、場所、対面者、同行者などを記録しておく。

※体調チェック・行動履歴は、大会開催地へ出発する2週間前から各自記入すること。(様式は全日本軟式野球連盟ＨＰに掲載)なお、大会本部より、提出を求められた際には、速やかに提出できるように準備しておくこと。

※体温が37.5℃以上及び発熱症状がある場合、倦怠感、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚異常、息苦しさ（呼吸困難）などの体調不良が見られる場合は、勇気をもって休む。同居者・同部屋宿泊者に上記症状がある場合も同様。

②マスクの着用

・競技およびウォームアップ実施中以外は、常時マスクを着用すること。熱中症には十分に注意すること。

・日常的にマスクを着用し、移動中の着用にも努めること。

・マスクを外さざるを得ない場合には、ソーシャルデイスタンス(2m)が保たれていない状況下での会話・声掛け・大声は控えること。

・競技中の選手間のコミュニケーションのための声掛け、発声については相手との距離や飛沫を考慮し、一程度の距離を保つことや、向き合わないなどの工夫をすること。

③手指消毒の励行

・こまめな手洗いと手指消毒を行うこと。

④人混みを避ける

・3 密(密閉空間、密集場所、密接場面)を回避すること。

・人混みにやむを得ず入る場合は、正しくマスクを着用すること。

・不要不急の外出、同居家族・チーム関係者以外との会食は控える。

・日常生活の場面でも、ソーシャルディスタンス(人との距離を2m、最低1ｍ)を確保するように留意する。

・「新しい日常」「新しい生活様式」に適応し、飲食については、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにすること。また、同じトング等での大皿での取り分けを控え、回し飲みはしないこと。大人数での会食は控えること。

⑤大会終了後14日以内に感染者が発生した場合

・大会終了後、居住地へ到着してから14日以内に感染者が発生した場合は、大会本部に連絡すること。

≪2.選手及びチーム関係者の感染予防対策≫

チーム関係者は、感染予防対策を念頭に置きながら選手への指導や選手との接触を行うこと。

(1)自宅・宿泊施設での対応について

①起床後と自宅または宿泊施設出発前に検温を実施すること。

②検温により、37.5℃以上の発熱者は、チームに帯同させず一時的に隔離すること。
状況により、症状が軽い場合は「愛媛県新型コロナ受診相談センター」に、症状が強い場合は、消防（119）に連絡し、指示を受けること。
また、大会主催者にも状況を報告し、大会参加の可否についての指示を受けること。

③宿舎では、基本的に個室を手配し、複数人で宿泊の場合は、部屋内でのマスク着用の他、感染予防対策に努めること。できる限り、家族単位での部屋割りにすること。

④宿泊施設は、感染予防対策を十分に行っている施設を選ぶこと。

⑤食事は、できるだけ隣同士の距離を空けて摂ること。

⑥原則、食事はビュッフェ形式を避けること。ただし、宿泊施設の都合によりビュッフェ形式の場合は、宿泊施設内の感染予防対に従い食事を摂ること。

⑦他のチームと宿泊施設が同じ場合には、食事時間に差をつけるなど、接触する機会を減らすこと。

⑧ミーティングを行う場合は、マスクを着用し、隣同士の距離を空けて、できる限り短い時間で行うこと。

⑨熱中症のリスクを下げるため、試合後速やかに宿舎または自宅に帰ること。

⑩各自の部屋に集まっての飲食やマスクなしで大勢が集まって懇談することがないようにすること。

⑪選手及びチーム関係者は、不要な外出は行わないこと。

⑫宿泊施設内の共有部分(ロビー、廊下、エレベーター等)では、マスクを着用すること。
チェックインやチェックアウトの手続きは代表者(少人数)が行うこと。

⑬外部との接触(面会・会食)は控えること。

(2)移動について

①移動中は、マスクの着用と手指消毒を徹底すること。

②移動中の車内換気を十分に行うこと。

③移動中の飲食には注意を払うこと。

④公共交通機関を利用する場合は、混みあう時間帯をなるべく避けること。

(3)会場到着後について

①「NPBガールズトーナメント2021健康チェックシート【提出用】」(以下、健康チェックシート。様式は、全日本軟式野球連盟ＨＰに掲載)を、宿泊施設を出発する前に記入し、球場到着後すぐにベンチ入り者受付、応援者受付にそれぞれ提出すること。

健康チェックシートにおいて、体温が37.5℃以上あった者は球場への入場を禁止する。また、同チェックシートの質問に「有」とチェックがあった者の球場への入場の可否については、大会主催者がチーム代表者と協議して判断する。

②ベンチ入り者受付、応援者受付にて検温を行い、37.5℃以上あった場合は、球場への入場を禁止する。

※球場入口での検温時に、発熱が発覚した場合は、発熱者は大会主催者の指示に従って行動すること。病院受診または宿泊施設や自宅に戻る際は、公共交通機関以外の手段で移動すること。なお、移動の際は、他者と接触しないように配慮すること。また、その他の当該チームの選手及びチーム関係者は球場には入らず、バスや自家用車などで待機することとし、大会主催者の指示に従って行動すること。

③球場入口にて手指消毒を行い入場すること。

④全員マスク着用で入場すること。

≪試合前≫

①待機場所ではマスクを着用し、密集、密接を避けるように努めること。

②チームは、大会主催者の指示を受けてから、グラウンドやダッグアウトに入ること。次チームの待機場所は、大会主催者の指示に従う

③対戦チームならびに審判員、大会関係者等との接触はできる限り避けること。

④ウォーミングアップ時は、マスクの着用は任意とする。

但し、熱中症には注意すること。

⑤試合前整列は、監督・主将はバッターボックス付近に整列し、その他の選手はそれぞれの塁線上に外野方向に整列すること。握手はせずに、審判員の合図で一礼し、試合が始まる。

≪試合中≫

①試合に出場している選手以外の控え選手及びチーム関係者はマスク着用とする。(ベースコーチは除く)

②ダッグアウト内では、選手同士の間隔の確保に努める。

③素手でのハイタッチや握手を控える。

④唾を吐く行為、手を舐める行為は禁止する。

⑤ベンチ前の円陣や声出しは推奨しない。実施する場合は、一定の間隔を保つ。

⑥監督が選手交代や確認等にて球審に近づく場合は、マスク着用の上、一定の距離を取ること。

⑦投手交代等でマウンドに集まる際には、できるだけ選手、監督との距離をとり、可能な限り接触を避ける。

⑧チーム共用の道具については、こまめに消毒を行うこと。

⑨タオル、ペットボトル、コップ等の共有は避けること。

⑩ベンチ内で出たゴミは各自持ち帰ること。

≪試合終了後・ダッグアウトの入れ替え≫
①試合終了後、チームの選手、チーム関係者は速やかに道具をまとめてダッグアウトから出る準備をすること。その際は、マスク着用のこと。
②ダッグアウトを出る時には、極力、次チームとの接触は避けること。
※大会主催者から指示のあった動線で入退場の指示を受けてから移動すること。
③次チームは、ダッグアウト内の消毒作業完了後、ダッグアウト内に荷物を入れること。
④取材対象者は、マスク着用でソーシャルディスタンスを保ち取材対応すること。

≪大会中止および出場可否判断について≫
大会主催者とし、事業・活動の可否判断は、「選手、チーム関係者、審判員、大会運営者、その他関係者の**安全確保が最優先**」であり、主催者が総合的な判断をもって行う。

(1)中止を検討しなければならない状況について
①感染拡大が懸念される場合
・開催県および開催地において、大会の継続が困難と判断される旨の要請・通達が自治体からなされた場合。
②不可抗力によりチームが大会に参加できない場合
・出場チームの都道府県市区町村において、政府または当該の自治体により大会参加に関わる制限が発令された場合。
・開催県および開催地より移動制限・イベント開催制限がある場合。
③チームからの出場辞退により参加チーム数が揃わない場合
・大会出場チーム数の20%(目安)以上の辞退チームがあった場合
・新型コロナウイルス感染症の影響により、チームが参加を辞退した場合、ペナルティは課さない。

(2)出場可否判断について
①大会主催者は、大会期間中に緊急事態宣言が発令される地域の出場チームに対して、出場辞退勧告ができる。
②大会主催者は、大会までに出場チームの選手及びチーム関係者に陽性者または感染の疑いのある者が出た場合、出場チーム全体の安全が確認されるまでに十分な回復期間が確保されない場合は、原則として当該チームを出場禁止とすることができる。
③大会主催者は、大会までに陽性者の回復、濃厚接触者の隔離期間解除がなされない場合は、出場チームの選手及びチーム関係者に対して出場禁止とすることができる。
④大会主催者は、大会期間中に出場チームの選手及びチーム関係者に感染の疑いがある者が生じて安全性の判明が間に合わない場合は、当該チームに対して出場禁止とすることができる。
⑤大会主催者は、大会期間中に試合を行った対戦相手に陽性者や感染の疑いのある者が生

じた場合は、当該チームに対して出場禁止とすることができる。
⑥大会主催者は、大会中に出場チームの選手及びチーム関係者に37.5 度以上の発熱者および別に記載の新型コロナウイルス感染症を考慮する症状を有する者が生じた場合は、当該チームに対して出場禁止とすることができる。

(3)回復期間について
①新型コロナウイルス感染症と診断された者は、当該地域保健所が指示する新型コロナウイルス感染症の療養完了日まで、指定場所で療養こと。
②チーム内で新型コロナウイルス感染症と診断された者が出た場合、発症日(症状が出た日)前日または前々日にチーム活動があった場合には、選手及びチーム関係者は感染可能期間に陽性者と接触していることから、濃厚接触の状況を保健所と確認し、状況把握が完了するまでチーム活動を自粛すること。
③前日、前々日とチーム活動がなかった場合(48 時間以上接触がないといえる場合)、他に体調不良者が存在しないことを確認後、チーム活動を再開しても構わないが、その後体調不良者や感染が疑われる者が出た場合には、状況把握が完了するまでチーム活動を再休止すること。
④活動の停止や大会参加への制限が行われる場合、当該者はもちろん、選手間やチーム関係者等への誹謗中傷の防止に努めること。
⑤大会主催者及びチームは、個人が特定されないよう情報管理(体調不良者/感染疑い者/感染者など)の徹底に注意すること。
※新型コロナウイルス感染症は、発症2日前(48 時間)から伝播する可能性があるため、感染リスクがある期間の接触有無を基準としている。
※上記内容は、選手だけではなく、チーム関係者の全てが対象となる。
大会前および大会期間中の体調管理ならびに行動にはくれぐれも注意すること。

≪3.観戦者の感染予防対策について≫
(1) チーム関係者及びチーム応援者の会場入りを認める。(一般の観客は入場不可)
各チームで、応援者の取りまとめを行い、応援者の健康チェックシートの記入について周知すること。
①健康チェックシート【提出用】（応援者用）（様式は、全日本軟式野球連盟ＨＰに掲載）を応援者受付にて提出する。
健康チェックシートにおいて、体温が37.5℃以上あった者は球場への入場を禁止する。その場合、大会主催者の指示に従って行動すること。同部屋に宿泊していた者も同様とする。また、その他の当該チーム応援者はバスや自家用車などで待機することとし、大会主催者で球場入りの可否をチームに告げる。
②応援者受付にて検温の実施
※37.5℃以上の方の球場への入場を禁止する。

※応援者受付での検温時に、発熱が発覚した場合は、発熱者は大会主催者の指示に従って行動すること。病院受診または宿泊施設や自宅に戻る際は、公共交通機関以外の手段で移動すること。なお、移動の際は、他者と接触しないように配慮すること。また、その他の当該チーム応援者はバスや自家用車などで待機することとし、大会主催者で球場入りの可否をチームに告げる。

③検温後に『検温済シール』を配布する。マスクの見えるところに『検温済シール』を貼り、会場を出るまでシールを剥さないように注意する。

※健康チェックシートで体調不良の項目にチェックが記入されている方の入場は禁止する。

※健康チェックシートの体調不良の項目にチェックがある場合および入場時に37.5℃以上の発熱がある場合は本部へ報告。

④入場の際は、手指消毒を行うこと。

⑤観客席内では、常時マスクを着用し、水分補給等、熱中症対策以外の飲食は控えること。ただし、熱中症に注意すること。

⑥座席の間隔をあけて座ること。

⑦応援スタイルについて、以下の注意事項を遵守すること。

拍手	○
通常の声援	×
タオル等を横に広げて左右に振る	○（振り回すことは禁止）
ハイタッチ	×（手が触れなければ可）
鳴り物の応援	×（ラッパやホイッスル等の鳴り物を使用しての応援は禁止）
指笛の応援	×
メガホンを打ち鳴らしながらの声援	×
肩組等集団での動きを伴う応援	×（チアリーディングによる応援も不可）

≪4.運営側の感染予防対策について≫

・健康チェックシート(別紙参考)などを作成し、大会(イベント)当日に提出すること。大会関係者（大会役員・大会運営スタッフ・審判員）にも健康チェックシートなどの実施を行うこと。なお、大会(イベント)実施の14日前の行動記録なども記入し、必要がある時には提示または提出するように案内すること。

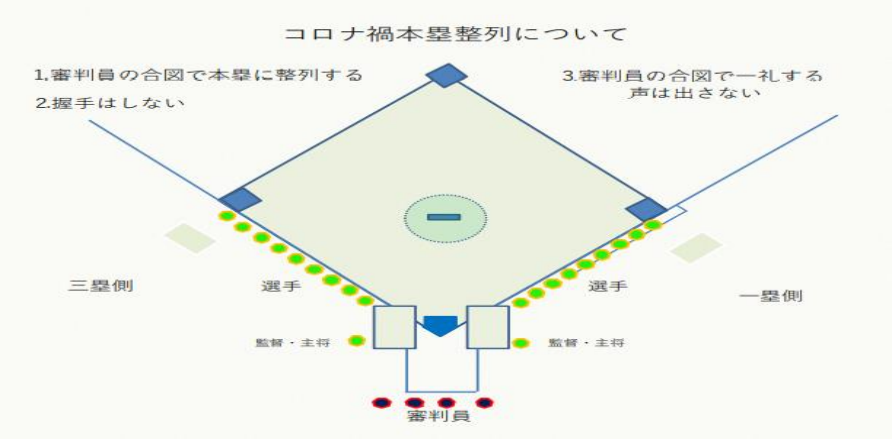
・練習場所および試合会場、観客席の入口に、消毒液や除菌シートなどを設置すること。

・大会開催の際は、試合間のインターバルを通常より長く設定し、ベンチ内の消毒などを行うこと。また、チームの入れ替え時には、選手ならびに関係者が密集しないように工夫すること。

・選手やチームを集めるなど、密集することがないように配慮すること。
例えば、試合前の整列・挨拶については、感染予防の観点から工夫すること。
・万が一、感染者が発生した場合には都道府県支部(連盟・協会)に速やかに報告すること。また、都道府県支部(連盟・協会)は、全日本軟式野球連盟に報告すること。
・参加チーム内および大会関係者、審判員において、体調不良者、感染の疑い者、濃厚接触者、感染者が発生した場合は、状況等を把握し、自治体の衛生部局や保健所などと連携し対応すること。そして、大会運営側で大会中止・継続を協議し判断すること。

・試合が行われた後に出場チームまたはチームスタッフ内に新型コロナウイルス感染症の疑いが発生した場合、(接触状況によっては)担当審判員も感染の可能性があることを理解することが大切である。
・担当審判員は、感染疑い者が新型コロナウイルス感染症の可能性を否定されるまで、もしくは感染疑い者が新型コロナウイルス感染症と診断された場合には、濃厚接触者の特定が完了されるまで、審判活動を自粛する。
・大会主催者は、出場チームに感染者が発生した場合、出場チームだけでなく審判員の情報共有も必ず行うこと。
・審判員に感染疑い者が発生した場合、審判クルー及び試合が行われた両チームに報告の上、接触状況からチーム関係者への感染が疑われるもしくは濃厚接触者に該当する等、安全性が確保されない場合に両チーム(勝利して次戦試合があるチームも含む)に出場辞退、棄権を勧告し、または参加資格を取り消すことができる。
・大会関係者に感染疑い者が発生した場合、行動記録を確認し、選手やチーム関係者との接触有無および濃厚接触に該当するかを確認し、大会継続可否を判断する。
・大会関係者の大勢での打ち上げや会食はしないこと。

※「濃厚接触」とは「感染者の発症の2日前から入院等をした日までの間に、目安として1m以内の距離で、マスク未着用での15分以上の会話や接触をした状態」とされている。(厚生労働省より)



≪5.来賓関係者の感染予防対策≫

選手・チーム関係者との接触・会話等は極力、お控えください。

(1)自宅・宿泊施設について

①起床後と自宅または宿泊施設出発前に検温を実施し、その他の場面でも体調不良者が出た場合には、すぐに検温・体調不良の詳細について情報収集を行う。

②検温により、37.5℃以上の発熱者、または新型コロナウイルス感染症を疑う症状を有する者は、チームに帯同させず（他者と交わらないよう）一時的に隔離し、「受診・相談センター」に連絡し今後の対応を相談すること。なお、病院での診察を受けるもしくはPCR検査を受検する場合は、大会本部に報告すること。

③宿舎では、原則一人部屋を推奨する。但し、複数人での宿泊の場合には、最低限の人数とし、部屋内でのマスク着用などの飛沫対策、手指衛生などの接触感染予防対策に努めること。

④宿泊施設は、感染予防対策を十分に行っている施設を選定する。

⑤食事の際には、隣同士の距離を空けて十分な距離を保つことを心がける。

⑥原則、食事はビュッフェ形式を避けること。ただし、宿泊施設の都合によりビュッフェ形式の場合は、宿泊施設内の感染予防対に従い飛沫・接触感染対策を遵守すること。

⑦各自の部屋に集まっての飲食は避け、マスク非着用下で大勢が集まり懇談することがないように注意すること。

⑧不要な外出は行わず、やむを得ず外出する場合は、マスクを着用し感染リスクの高まる行動はとらないこと。

⑨宿泊施設内の共有部分(ロビー、廊下、エレベーター等)では、マスクを着用すること。

⑩外部との接触(面会・会食)は控える。

⑪<u>参加後に1週間以内に新型コロナウイルスに感染した場合は、速やかに大会本部に連絡すること。</u>

(2)移動について

①移動中は、マスクの着用と手指消毒を徹底する。
宿泊施設から球場間の移動については、車内の換気を十分に行うこと。

②公共交通機関を利用する場合は、混みあう時間帯をなるべく避ける。

(3)会場到着後について

①「健康チェックシート(来賓・報道関係者用)」を試合当日、大会本部に提出する。
健康チェックシートにおいて、体温が37.5℃以上あった者は球場への入場を禁止する。その場合、自宅または宿泊施設に当該者は戻ること。戻る際は、原則公共交通機関は使用しないこと。
また、同チェックシートの質問に「有」とチェックがあった者の球場への入場可否については、大会主催者が協議して判断する。

②球場入口にて検温を行い、37.5℃以上あった場合は球場への入場を禁止する。
※球場入口での検温時に、発熱が発覚した場合は、原則公共交通機関以外の手段で宿泊施設または自宅に戻るか、
「愛媛県新型コロナ受診相談窓口」に連絡したうえで病院受診すること。なお、移動の際は、他者と接触しないように配慮すること。
③球場入口にて手指消毒を行い入場する。
④球場内は、飲食時以外はマスク着用とする。

≪6.報道関係者の感染予防対策≫

上記の共通感染予防対策を実施すること。
取材以外での選手・チーム関係者との接触・会話等は控えること。
感染予防対策(マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンス等)を十分に徹底し、取材を行うこと。
取材後、1週間以内に新型コロナウイルスに感染した場合は、速やかに大会本部に連絡すること。

(1)自宅・宿泊施設について
①起床後と自宅または宿泊施設出発前に検温を実施し、その他の場面でも体調不良者が出た場合には、すぐに検温・体調不良の詳細について情報収集を行う。
②検温により、37.5℃以上の発熱者、または新型コロナウイルス感染症を疑う症状を有する者は、チームに帯同させず（他者と交わらないよう）一時的に隔離し、「受診・相談センター」に連絡し今後の対応を相談すること。なお、病院での診察を受けるもしくはPCR検査を受検する場合は、大会本部に報告すること。
③宿舎では、原則一人部屋を推奨する。複数人での宿泊の場合には、最低限の人数とし部屋内でのマスク着用などの飛沫対策、手指衛生などの接触感染予防対策に努めること。
④宿泊施設は、感染予防対策を十分に行っている施設を選定する。
⑤食事の際には、隣同士の距離を空けて十分な距離を保つことを心がける。
⑥原則、食事はビュッフェ形式を避けること。ただし、宿泊施設の都合によりビュッフェ形式の場合は、宿泊施設内の感染予防対に従い飛沫・接触感染対策を遵守すること。
⑦各自の部屋に集まっての飲食は避け、マスク非着用下で大勢が集まり懇談することがないように注意すること。
⑧不要な外出は行わず、やむを得ず外出する場合は、マスクを着用し感染リスクの高まる行動はとらないこと。

⑨宿泊施設内の共有部分(ロビー、廊下、エレベーター等)では、マスクを着用すること。
⑩外部との接触(面会・会食)は控える。
⑪参加後に1週間以内に新型コロナウイルスに感染した場合は、速やかに大会本部に連絡すること。

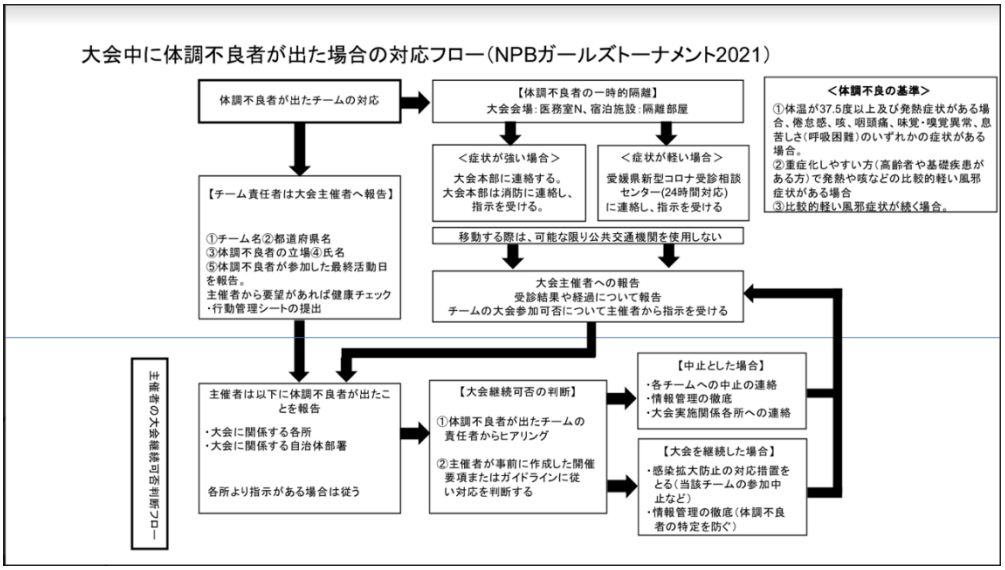
(2)移動について
①移動中は、マスクの着用と手指消毒を徹底する。
宿泊施設から球場間の移動については、車内の換気を十分に行うこと。
②公共交通機関を利用する場合は、混みあう時間帯をなるべく避ける。

(3)会場到着後について
①「健康チェックシート(来賓・報道関係者用)」を試合当日、大会本部に提出する。
健康チェックシートにおいて、体温が37.5℃以上あった者は球場への入場を禁止する。その場合、自宅または宿泊施設に当該者は戻ること。戻る際は、原則公共交通機関は使用しないこと。
また、同チェックシートの質問に「有」とチェックがあった者の球場への入場可否については、大会主催者が協議して判断する。
②球場入口にて検温を行い、37.5℃以上あった場合は球場への入場を禁止する。
※球場入口での検温時に、発熱が発覚した場合は、原則公共交通機関以外の手段で宿泊施設または自宅に戻るか、「愛媛県新型コロナ受診相談窓口」に連絡したうえで病院受診すること。なお、移動の際は、他者と接触しないように配慮すること。
③球場入口にて手指消毒を行い入場する。
④球場内は、飲食時以外はマスク着用とする。
⑤記者席または報道陣用控室(設置されている場合)においては、定期的に換気する。
座席は間隔を空け、安全な距離を確保する。(2m～最低1m)

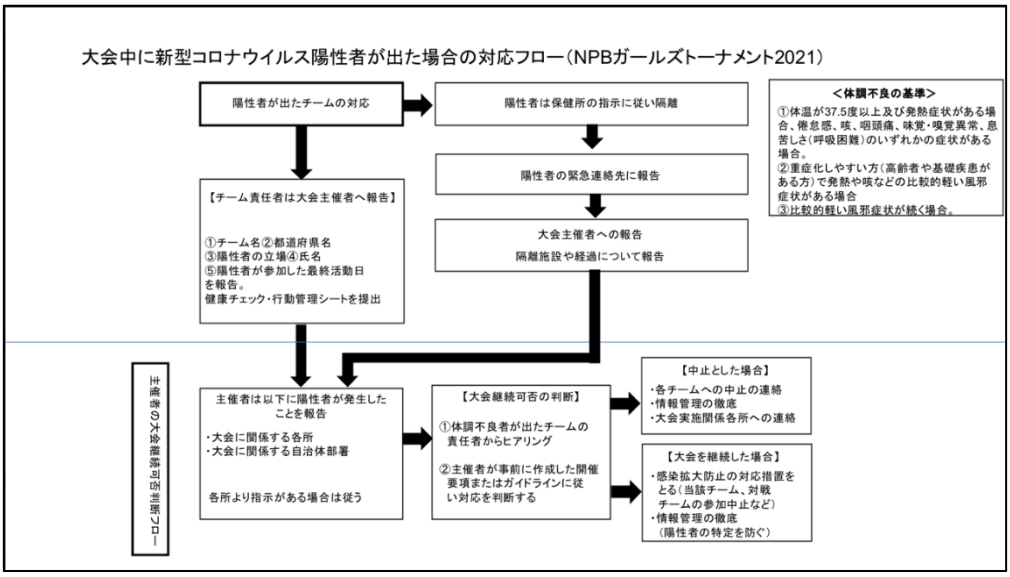
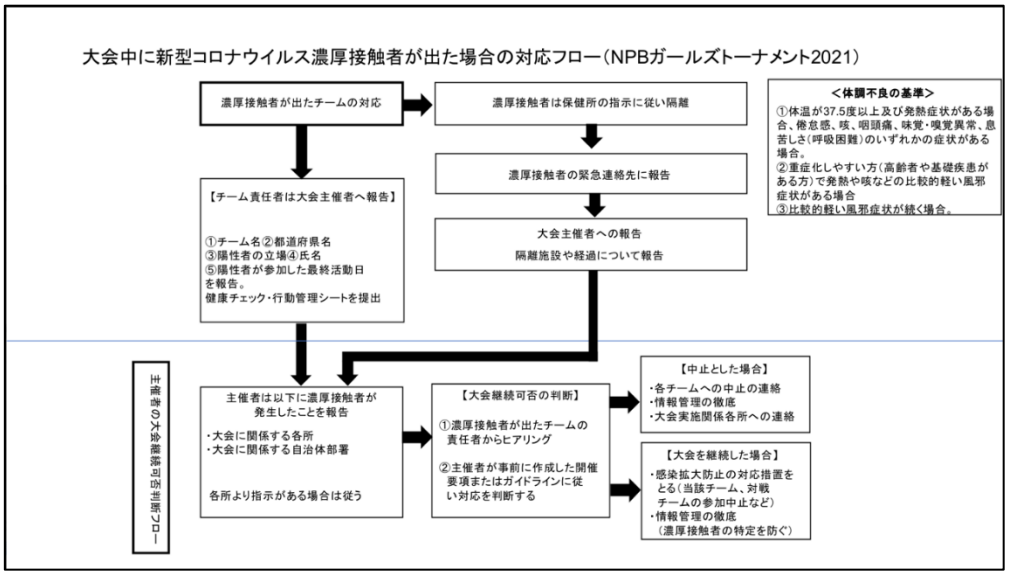
(4)取材時について
①原則、取材は室内ではなく屋外で且つ気候に配慮した場所で行うこと。
②取材の際は、必ずマスク着用で2m～1mの距離を確保すること。
③複数人をまとめて取材する場合は、密にならないように安全な距離をそれぞれ確保すること。
④各社、取材後にチーム名と取材対象の氏名、取材方法(電話・対面・オンライン等)を大会本部に報告すること。※報告様式は別紙。
⑤複数の記者やカメラマンが選手やチーム関係者に密集しないように配慮すること。
⑥記者ならびにカメラマンは、所属が判別できるように、ビブスや腕章、IDカードを常時着用すること。

以上

大会中に体調不良者が出た場合の対応フロー（NPBガールズトーナメント2021）



大会中に新型コロナウイルス陽性者が出た場合の対応フロー（NPBガールズトーナメント2021）



大会中に新型コロナウイルス濃厚接触者が出た場合の対応フロー（NPBガールズトーナメント2021）